

付、心の儘ままなるべし、米・金・雜穀たくさんを沢山たくさんに
 持候とて、無理むりに地頭代官よりも取事なく、

天下泰平てんかたいへいの

御代ごよなれば、脇わきよりおさへとるものもこれなく、
 然しかれバ子孫こまごまでうとくに暮くし、世けん

きゝんの時も、妻子・下人等をも心安やすくはぐ
 くみ候、年貢さへすまし候へハ、百姓ほど心

安きものハこれなく、能よくよく々此趣このおまじをこゝろかけ、
 子々孫々しゝんそんまで申伝つたへ、よくよく身持をかせ
 き申べきもの也

慶安二年丑二月廿六日